

要旨

第36回 孝道山 夏季仏教文化講演

第36回孝道山夏季仏教文化講演が7月16日、孝道山で開催され450人の市民や信徒が参加した。京セラコミュニケーションシステム・コンサルティング事業本部長の松井達朗氏が「心を高める 経営を伸ばす—JALの再建を成功させた稲盛経営哲学」、臨済宗円覚寺派の横田南嶺管長が「仰げば光あり」と題して講演した。

孝道山のご指針「伝える 与える 分かち合う」の中で、「伝える」との言葉に感動しています。寺離れがいわれて久しい今、伝える努力の大切さを感じているからです。伝えることと、伝わることは違います。伝えたいつもりでも、伝わっていないなら、意味はありません。次世代の人たちに大事なことが伝わっているでしょうか。

仏教詩人、坂村真民先生(1909~2006)の詩は分かりやすく、心に伝わってきます。先生は高校教師で毎朝、臨済宗の修行道場で座禅をして仏教を学んでいました。ある老師からは「3歳の子どもが読んで分かる詩を作りなさい」と言われたそうです。退職後は午前0時に起きて座禅、読経し、朝日を拝んで詩を授かったといわれています。それらの詩は洗練され、言葉が美しいのです。

京セラ創業者・稲盛和夫さん(1932~)の「稲盛経営哲学」を社会に広めるコンサルティングの仕事をしています。2010年に経営破たんしたJAL再建のお手伝いをしました。

この「経営」という言葉の範囲は、会社だけでなく人の生き方や人生にも及びます。経営で一番大事なことはトップである社長、あるいは親などが立派な考え方をもち、それを社員や家族と共有すること。そして人生や仕事の結果は、「考え方×熱意×能力」という方程式で決まり、中でも考え方が最も大切であると、稲盛さんは言っています。

また、人生の目的は「魂」を磨くこと、と稲盛さんはいいます。生まれた時よりも綺麗な魂になって来世につなぐ。私たちは人生の時間の大半を働くことに費やすわけですから、働く場が魂を磨く道場というわけです。

稲盛経営哲学では、会社は経営者の個人的な夢を果たすものではなく、従業員とその家族の生活を守り、皆の幸せを実現するための存在です。経営者は自分が豊かになるために従業員を使うのではなく、経営理念でもあります。

京セラはメーカーですから、ものづくりを通じて一人一人の心を高め、人格を磨こうとしています。例えば、スマホ。買ったとき、ピカピカでしょう。出荷時に熟練作業員がアルコールで素早く拭いています。初心者では拭いた跡が残ってしまいます。これは慣れればできるというよりも、うまく拭く工夫、製品を手にするお客さまの喜びを想像できるかどうか。つまり、心を磨くことを伴わなければ、技術も高まらないのです。

代表作の一つ、「二度とない人生だから」を引用します。二度とない人生だから一輪の花にも無限の愛を/そそいでゆこう/一羽の鳥の声にも無心の耳を/かたむけてゆこう/二度とない人生だから一匹のおおるぎ

仰げば光あり

でも/ふみころさないように/こころしてゆこう/どんなにかよるこぶことだろう/二度とない人生だから/いっぺんでも多く/便りしよう/返事は必ず書くことにしよう(以下略)

真民先生の詩の世界がよく表れています。「返事は必ず書く」とい

るたびに、私の本を読み、今に集中する座禅の心得を思い出して、今を生きようとしている、と。

その後がんは転移しましたが、やり取りは続きました。手紙には「病を得なければ、心について、人間について、そして自分を高めようと読書や勉強をすることなど

なかつたでしょう。管長さまとご縁をいたたくこともなかつたと思います。悪いことと思われても、もう一方には必ず、良いことがあるのですね」とありました。

「影あり、仰げば光あり」。これは真民先生の短詩です。私たちは影があると、それにとらわれてしまいがちですが、影ができるのは光が照っている証拠。うつむけば影、でも振り向いて仰げば光。しばらく経って、婦人のご両親とご主人から手紙が届きました。婦人は最後まで明るく感謝の気持ちでしっかりと生きることができました、と丁寧なお礼が述べられていました。

く、経営に尽力することで従業員を幸せにするのです。

経営の目的は全従業員の物心両面の幸福の追求です。従業員が幸せで一生懸命働いてくれなければ会社は立派になりません。これが「心を高める 経営を伸ばす」とい

うことです。全従業員の物心両面の幸せは、稲盛さんの信念であり、京セラ、携帯電話auのKDDI(稲盛さん創業)、そしてJALの経営理念でもあります。

京セラはメーカーですから、ものづくりを通じて一人一人の心を高め、人格を磨こうとしています。

完璧を目指して仕上げた製品は品質がよく、見た目も美しい。それは、ものづくりに携わる人がどんな生き方をしているか。私生活でも向上心と謙虚さをもって努力しているか。そういう態度が製品にも反映されるのです。

今年6月、私の法話の会に、ご両親が娘さんの遺影を抱いて来てくださいました。巡り合いの不思議、出会いのありがたさを教えられています。

例え、スマホ。買ったとき、ピカピカでしょう。出荷時に熟練作業員がアルコールで素早く拭いています。初心者では拭いた跡が残ってしまいます。これは慣れればできるというよりも、うまく拭く工夫、製品を手にするお客さまの喜びを想像できるかどうか。つまり、心を磨くことを伴わなければ、技術も高まらないのです。

一例を挙げましたが、このように、仕事は仕事、心は心と、別々に捉えるのではなく、仕事の質を高めることと、心を磨いて人格を高めることは、同じことなのです。先ほど、人生の方程式では考え方が大切、といったことの意味です。こうした哲学の実践が広まり、従業員一人一人がよりよい人生を実現し、同時に会社や組織が社会の進歩発展に貢献できるよう、願っています。



松井達朗氏



横田南嶺師

青森別院法話の会 幸せの習慣つくる

青森別院(つがる市)で7月23日、恒例の「法話の会」が開かれた。統理さまが「幸せの習慣をつくる仏教の教え」と題して講演し、信徒や市民ら70人が耳を傾けた。

講演の中で統理さまは、禅定によって自分の感情

や思考のあり方に気づき、「それらにとらわれるのではなく、物事を正しく見、有益な思考に心掛けてください」と、習慣化することの大切さを説かれた。

統理さまは前日、同別院の役員たちと話し、2回目となる布教師養成講座を行った。

また、同別院第六支部の原田久美・くみ子(名古屋市在住)法座が10月に支部結成を目指している。



70人が法話に聴き入った



孝道葬から納骨法要、永代供養まで孝道山がおこなう、新しい納骨壇。(ただし、葬斎を除きます)

永代供養 納骨壇

開堂50周年記念特別頒布
孝道山仏舎利殿納骨堂
お祀りする
ゆかりのご仏舎利を
比叡山延暦寺



祭壇(扉付き)があります